

(事後評価)

資料4－2－①

令和2年度第6回
関東地方整備局
事業評価監視委員会

国営アルプスあづみの公園

令和3年1月18日

国土交通省 関東地方整備局

目 次

1.事業の目的・概要	 1
2.事業の経緯	 2
3.事業目的の達成状況	 3
4.今後の事業へ活かすレッスン	10
5.まとめ	11

1. 事業の目的・概要

(1) アルプスあづみの公園の目的

- 「国営アルプスあづみの公園」は長野県北西部安曇野地域に位置し、長野県内をはじめ首都圏・中京圏の人々の多様なレクリエーションニーズへの対応を目的とし、『安曇野地域固有の景観・文化』、『日本を代表する山岳地帯に抱かれた自然』の魅力をもつ公園である。

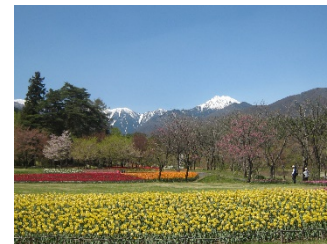
(2) アルプスあづみの公園の概要

- 本公園は2地区からなる国営公園
- 堀金・穂高地区は、失われつつある安曇野の田園風景を保全・復元し、いつでもその景観にふれたり、「安曇野」という地域の自然・文化を体験できる拠点となっている。
- 大町・松川地区は、日本を代表するアルプスの山岳景観につながる良好な自然環境を保全しながら、その自然環境を学び、体験できる拠点となっている。

公園の所在地



堀金・穂高地区(安曇野市)



北アルプス「常念岳」を背景にしたチューリップ

大町・松川地区(大町市、松川村)



北アルプスが一望できる「大草原の家」

2. 事業の経緯

(1) 事業の経緯

- 平成16年7月に堀金・穂高地区の一部、平成21年7月に大町・松川地区の一部を開園した。
- 平成24年に基本計画の変更を経て、平成28年6月に全面開園した。



平成10年 起工式



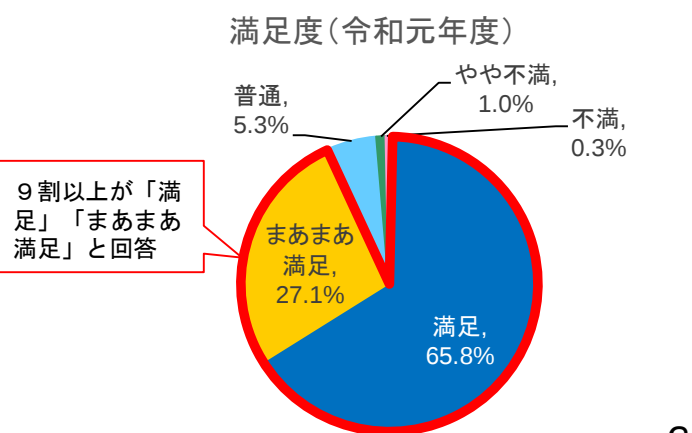
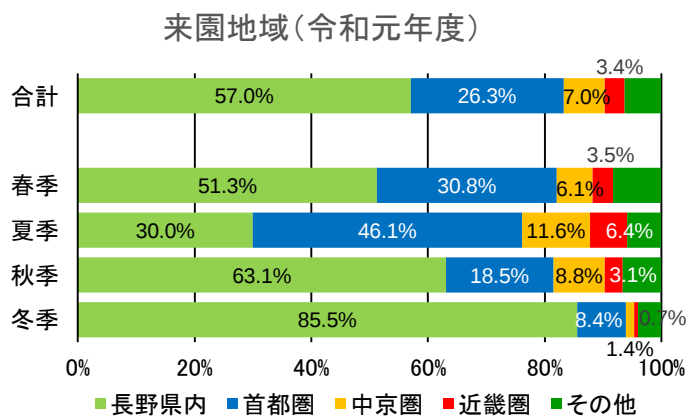
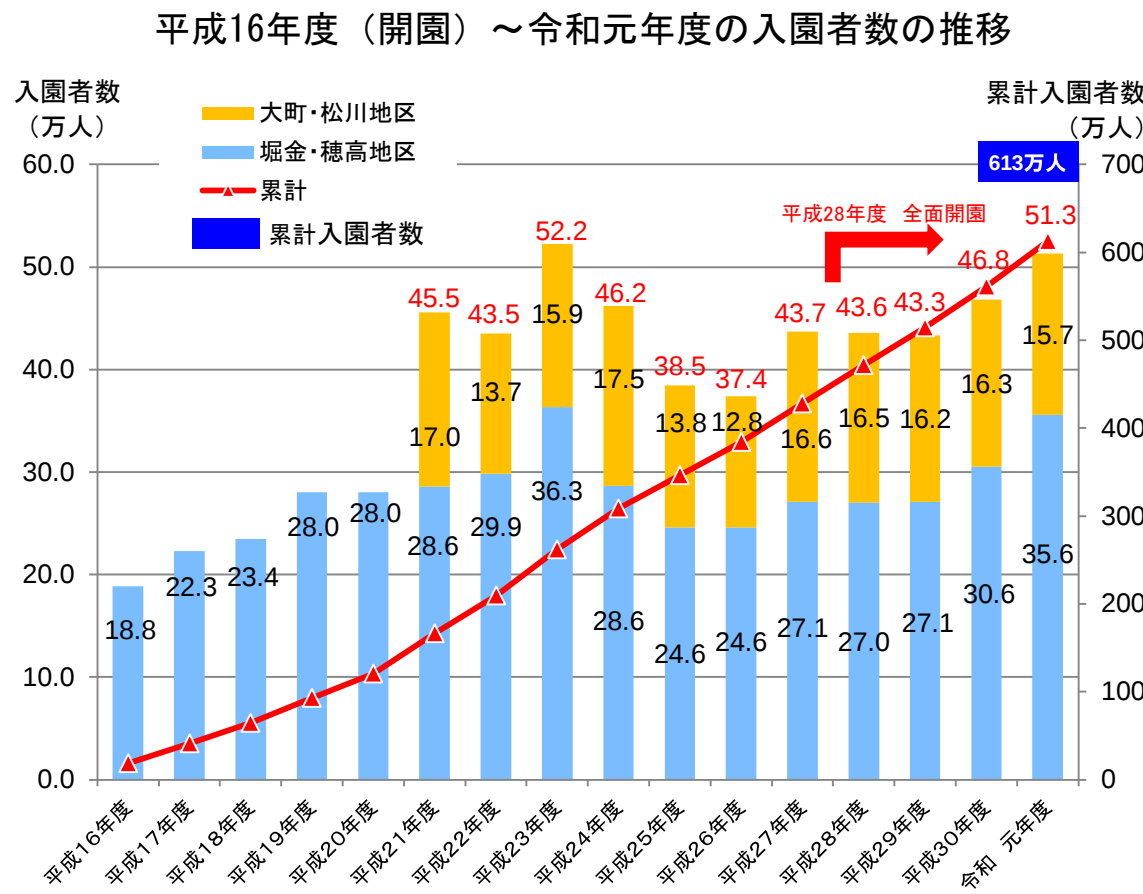
平成28年 全園開園記念式典

年 月	事 項
平成2年4月	事業採択
平成2年10月	基本計画策定
平成2年11月	都市計画決定
平成10年10月	起工式
平成16年7月	堀金・穂高地区 一部開園(供用面積 約27ha)
平成21年7月	大町・松川地区 一部開園(供用面積 約106ha)
平成24年1月	基本計画変更
平成25年9月	大町・松川地区 追加開園(供用面積 約131ha)
平成26年4月	堀金・穂高地区 追加開園(供用面積 約148ha)
平成28年6月	全面開園(供用面積 約353ha)

3. 事業目的の達成状況 (1)事業の効果の発現状況

①入園者数の推移、公園の満足度

- 近年の年間入園者数は、2地区合計で50万人程度であり、定着してきたイベントの開催やニーズに対応した各種イベントの実施により、入園者数は増加傾向にある。
- 地元長野県以外の首都圏・中京圏を中心とした来園者が半数近くを占め、遠方からも多く来園されている。
- 公園の総合的な満足度は、9割以上が「満足」「まあまあ満足」と回答。



3. 事業目的の達成状況 (1) 事業の効果の発現状況

② 観光振興地域活性化への寄与

○次世代へ安曇野の風土や文化が体験できるプログラムづくりを行い、両地区合わせて、毎年約8万人の来場者が体験プログラムに参加している。また、季節毎のイベントの実施や周辺施設との連携による大規模なイベントを開催することにより、滞在・周遊促進による地域活性化を担っている。

●地域風土や文化を発信するイベント等の実施

体験プログラム・イベントの開催数

	体験プログラム	イベント
令和元年	277種類、77,700人	306件



工作体験



早春賦音楽祭



リレーマラソン

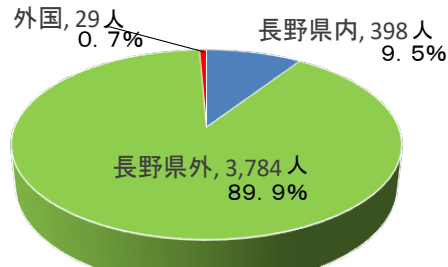
●地域への回遊・宿泊を誘発するイベント等の取り組み



「アルプスあづみのセンチュリーライド」

※堀金穂高地区と大町松川地区の離れた2つの地区を結ぶ自転車イベント

「アルプスあづみのセンチュリーライド」参加者数



・県外からの参加が多く、
周辺での宿泊も増加

③ 長寿・福祉社会への対応

- バリアフリーへの対応や移動手段の確保により、山麓に位置し高低差のある公園でも楽しんでもらう。
- 木に親しみを持ちながら遊べる遊具の設置。

●樹間を鳥の目線（高さ）で歩くバリアフリー園路



空中回廊(大町・松川地区)



●園内移動手段の確保



ロードトレイン(大町・松川地区)

●木製遊具の設置



こどもの森(堀金・穂高地区)

3. 事業目的の達成状況 (1) 事業の効果の発現状況

④ 自然との共生

- 地域文化や公園資源を活かした特色ある参加体験型プログラムを通じて、生物多様性や地域固有の環境、これらを支える技能継承の効果や様々な人々の交流を生み出す効果が期待できる。
- 希少な自然資源、緑環境を保全・継承するため、貴重種オオルリシジミの保護・育成や天蚕活動（観察会）、苗木植栽体験等を行っている。

●自然や野生生物、地域文化等を活かした様々な参加体験型プログラムの実施、文化の継承・発信



田んぼの教室(稲刈り体験)



馬耕の再現



繭（まゆ）の観察会

天蚕活動



天蚕用苗木の植栽体験

- 継続的な維持管理を行い、緑豊かな環境と地域景観、貴重な動植物の生息生育環境の魅力を向上させ、季節ごと・地区ごとに特色ある花修景（景観）の創出や効果的な情報発信に努めている。

●四季の特色を活かした魅力の発信

春



ナノハナ(花修景)

夏



川遊び体験

秋



キバナコスモス(花修景)

冬



雪原でのソリ遊び

3. 事業目的の達成状況 (1) 事業の効果の発現状況

⑤防災に関する効果

- 平成26年7月に、陸上自衛隊第12旅団と「災害時等の国営公園の占用に関する協定」を締結した。
首都直下地震等の大規模災害発生時には指揮所や資材集積所等の拠点を公園内に設け、迅速かつ円滑な自衛隊の災害派遣活動が期待される。
- 平成25年に、大町市との間で「災害時における国営アルプスあづみの公園来園中の観光客等への支援に関する協定書」を締結。自治体と協力した来園観光客の帰宅困難者支援が可能となる。
- 国営公園の敷地内の広いスペースを活用し、防災訓練や防災体験イベントなどを行い、防災意識の向上を図っている。

●公園施設の防災対応



帰宅困難者受け入れ可能施設
(大町・松川地区 レンタル棟)



非常電源設備

3日間の無停電
に対応する非常
用電源設備



災害時の国営公園の活用例(新潟県
中越地震時の陸自部隊活動拠点の
展開状況: 国営越後丘陵公園)

●住民の防災体験・教育



防災意識啓イベント(消防フェスタ)



●公園管理者などによる防災訓練



災害時対応訓練実施状況



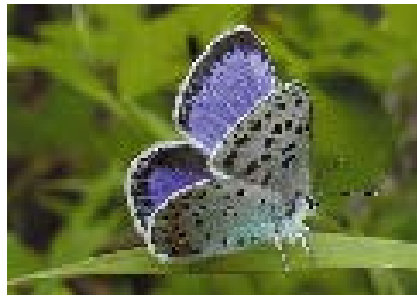
3. 事業目的の達成状況 (1)事業の効果の発現状況

⑥事業実施による動植物の育成、生息環境等への効果

- 本公園は、安曇野地域の里地里山環境を有しており、貴重種の生息・生育が確認されている。
- 公園内では、希少種や地域の在来種等に配慮した維持管理を行っている。

●貴重種オオルリシジミの保護・育成

- ・公園内に保護区を設け保護団体等と共同で観察会やイベント等を実施



公園内で観察される
「オオルリシジミ」



イベント
「オオルリシジミの蛹を放そう！」



観察会

●貴重種の保護・育成のための管理

- ・オオルリシジミの天敵である「メアカタマゴバチ」の駆除を目的とした野焼きの実施



⑦埋蔵文化財の保全・活用

- 公園内で確認されている古墳や遺跡などの保護や情報発信、大学生の学習フィールドとして活用されている。



園内にある古墳の保護、大学生の研究活用（堀金・穂高地区）



園内の遺構（山の神遺跡）のイベント活用（大町・松川地区） 7

3. 事業目的の達成状況 (1) 事業の効果の発現状況

⑧ 上位計画の変更の有無

○大町市の「第5次総合計画基本構想」「まち・ひと・しごと創生総合戦略」計画等に、本公園との連携した事業が位置づけられ、地元からも期待されている。

「大町市第5次総合計画基本構想」

・国営アルプスあづみの公園を活用した誘客の促進

公園内で毎年開催される大町市や松川村との共同開催「北アルプスフェア」



「大町市まち・ひと・しごと創生総合戦略」

・国営アルプスあづみの公園と連携した農家民泊による学習旅行

公園利用と連携した農家民泊体験



⑨ 周辺類似施設の整備状況

○長野県による「県営烏川渓谷緑地(都市公園)」が隣接して設置され、互いの公園の特性を補完しながら互いに相乗効果を発揮する施設となっている。

●県営烏川渓谷緑地（安曇野市）

面積: 153ha

開園: 平成14年度

令和元年度入園者数: 33,300人

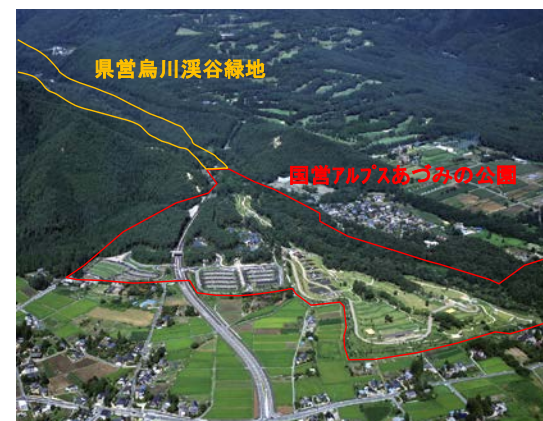
水辺エリア・森林エリアからなり、自然環境を保全することの大切さを感じることができる公園として、自然観察会や環境に関する学習会など、市民団体とも連携したイベントを開催。



水辺エリアの利用状況



河川での自然観察会



3. 事業目的の達成状況 (2)費用対効果分析

①費用便益比(B/C)の算出結果

便益(B)	直接利用価値	間接利用価値	総便益※	費用便益比 (B/C) 1. 8 9
	2, 314億円	536億円	2, 851億円	
費用(C)	建設費	維持管理費	総費用	
	1, 135億円	373億円	1, 507億円	

※端数処理により、合計額は一致しない

②変化要因と分析

- 今回評価ではB/Cが1.70から1.89に増加した。
この要因としては以下が考えられる。
- ・ 前回評価時（H24）以降の圏央道や外環道など高速道路等の整備の進捗による経路変化等のため、前回評価時に比べて最大旅行費用が増加
 - ・ 評価対象期間について、「部分供用開始時から50年」であったが、評価マニュアル改定により「段階的部分供用から50年」と変更になったことにより、総便益と総費用が増加

前回評価との比較

	H24再評価時	今回評価
総事業費	610億円	596億円
事業期間	平成2年度～平成27年度	平成2年度～平成27年度
総便益(B)	1,909億円	2,851億円
総費用(C)	1,120億円	1,507億円
費用便益比 (B/C)	1.70	1.89
基準年	平成24年度	令和2年度
評価期間	50年間 H16～H65	段階的部分供用から50年間 H16～R48

今回評価(R2)における消費税込み額

- ・総事業費 : 611億円
- ・総費用(C) : 1,566億円

4. 今後の事業へ活かすレッスン -本事業で得られた知見-

(1) 景観の保全と活用

- ・もともとの棚田地形を活かしながら、地形改変を最小限にした園路の整備や、外周柵も景観に配慮した竹柵や生け垣など、里山景観に配慮しながら、また、コストの縮減にも配慮した整備を行った。



既存の棚田地形の保全・活用



改変を最小限にした園路の整備



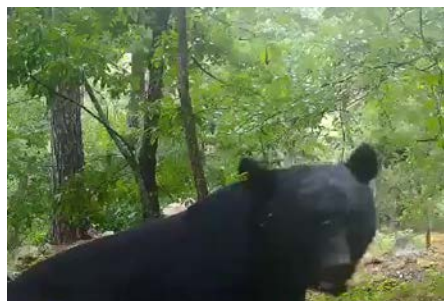
景観に配慮した公園外周部の管理柵
(竹柵) と植栽



里山景観との調和を図った水車小屋

(2) 野生動物との共存

- ・里山に位置することから多くの種類の野生動物が確認され、ツキノワグマ、サルなどの危険性を伴う大型動物の対策が必要となっている。
- ・本公園では、注意看板の設置や電気柵の設置による侵入防止、侵入時の追い払い訓練など、日常的な対策を行っている。



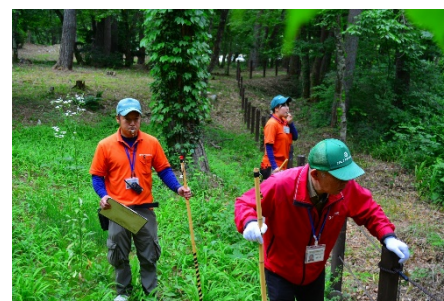
公園内に設置したカメラで撮影されたツキノワグマ



園内の注意喚起看板



公園外周への電気柵の設置による侵入防止



園内に侵入したクマの搜索・追い出し訓練

5. まとめ

(1) 今後の事後評価・改善措置の必要性

- 本事業の実施により観光振興や地域活性化、都市環境改善などの効果が発現していることが確認されており、今後の事業評価及び改善措置の必要性は現時点ではないと考えます。

(2) 同種業務の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

- 同種事業の計画・調査のあり方は、見直し等の必要性は現時点ではないと考えます。
ただし、事後評価の方法（間接利用価値の効果説明）については、今後検討してまいります。